

# 令和3年度 羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議録

## 【要旨】

日時 令和3年9月8日(水) 19:00~21:40

場所 羽咋市役所 401会議室

### 出席者

- 会長：松田 孝司 (羽咋市社会福祉協議会会長)
- 副会長：笠間 孝一 (羽咋市町会長連合会会長)
- 委員：藤本 裕子 (羽咋市商工会理事)
- 山川 知則 (はくい市観光協会会長)
- 高木 貢 (はくい農業協同組合総務部長)
- 出村 太一 (日本郵便株式会社羽咋千里浜郵便局長)
- 山辺外志美 (七尾公共職業安定所羽咋出張所所長)
- 岡田 規子 (羽咋市教育委員会教育委員)
- 出雲 香苗 (羽咋市校長会邑知小学校校長)
- 和泉 融 (日本政策金融公庫金沢支店支店長)
- 水野 裕二 (羽咋市銀行会北陸銀行羽咋支店支店長)
- 安田 哲朗 (株式会社北國新聞社羽咋総局長)
- 松村 裕子 (株式会社中日新聞社北陸本社通信局長)
- 西 敏之 (西司法書士事務所代表)
- 番匠 未樹 (羽咋市青年団協議会会長)
- 河島 佳江 (羽咋市各種女性団体連絡協議会会長)
- 川口 絹子 (NPO法人わくわくネット・はくい顧問)
- 上杉 海紗 (公募委員：学生)
- 欠席委員：橋本 隆 (株式会社ハクイ村田製作所取締役工場長)
- 上田 清春 (羽咋地域ライフ・サポートセンター羽咋事務局長)
- オブザーバー：谷内 松彦 (北陸財務局総務課長)
- 涌井 信弘 (石川県中能登総合事務所所長)
- アドバイザー：高山 純一 (国立大学法人金沢大学名誉教授)
- 平子 紘平 (国立大学法人金沢大学先端科学・社会共創推進機構特任助教)
- 市側出席者：岸 博一 (羽咋市長)
- 川口 哲治 (総務部長兼総務課長)
- 金山 幸富 (産業建設部長兼地域整備課長)
- 山本 裕一 (総務部次長兼企画財政課長)
- 清水 吉朗 (産業建設部次長兼農林水産課長)

市塚 葉子 (市民福祉部次長兼健康福祉課長)  
池田 博明 (教育次長兼文化財課長)  
岡嶋 克己 (商工観光課長)  
中島 一明 (都市づくり推進室長)  
片山 みゆき (地域包括ケア推進室長)  
中山 信之 (学校教育課学務担当課長)  
西村 広樹 (総務課課長補佐)  
安達 崇 (企画財政課課長補佐)  
見附 敦史 (企画財政課羽咋創生推進係長)  
三星 佑紀 (企画財政課羽咋創生推進係主事)  
広島 麻鈴 (企画財政課羽咋創生推進係主事)

会議傍聴者 : 1名

## 1. 開会

## 2. 市長あいさつ

本市では、平成27年度に「第1期がんばる羽咋創生総合戦略」を策定し、5カ年事業を実施してまいりました。また、令和2年度には「第2期がんばる羽咋創生総合戦略」を策定し、事業に取り組んでいます。

これまで行政だけでなく、金沢大学名誉教授の高山先生、特任助教の平子先生を中心に各分野の代表者である委員の皆さまからご助言、評価をいただきました。今回からは新たにオブザーバーとして北陸財務局総務課長の谷内様、そして、石川県中能登総合事務所長の涌井様に参加いただくことになりました。

委員の皆さまには全79施策について、短時間の中で審議していただくこととなりますがよろしくお願ひしたいと思ひます。

令和2年度につきましては、コロナ禍ということで数値的には目標に達していない事業がありますが、その点をどのように評価するか検討いただきたいと思ひます。

また、評価につきましては行政だけの満足になっていないか、事業の評価の指標が適切であるか、そういったところも見ていただければと思ひます。

行政としては評価をすることが手段ではなく、目的とならないように、皆様からの評価を受けて、事業をよりよくしていくとともに、必要のない事業については切り捨てることも必要だと考えています。

この点についても、ご審議のうえ、忌憚のないご意見をいただき、よりよい行政を行っていきたく思ひますのでよろしくお願ひいたします。

### 3. 委員等の自己紹介、事務局の紹介

(略)

### 4. 総合戦略会議組織について（正副会長の選任）

前任者の在任期間を引き継ぐ形で、会長に松田孝司委員、副会長に笠間孝一委員を選任。

### 5. 会議の公開及び会議録等の取り扱い等について

(略)

### 6. 報告事項

#### (1) 羽咋市の人口推移について

(略)

#### (2) 第2期 がんばる羽咋創生総合戦略の改訂について

(略)

#### (3) 第2期総合戦略の効果・検証結果（案）について

(略)

### 7. 重点審査

#### (1) ■基本的施策名：(3- (2)) 大学生と市内企業とのつながりを強化

□重要業績評価指標（KPI）：課題解決型インターンシップ受入人数

(意見) A委員：国際教養大学のような優秀な大学の生徒がインターンシップ先に羽咋市を選んでくれたのは嬉しく思う。全国からインターンシップ生を募集することで事業がさらによくなると思う。

(応答) 山本総務部次長：大都市圏を中心に広く学生を募集していきたいと思う。ちなみに県内の学生についても対象としている。

(意見) D委員：昨年度のインターンシップ生はアンケートを取る際にお年寄りを相手にこまめに意見を聞いて回っていたと聞いており、学生を事業に上手く活かしていると感じた。

(応答) 山本総務部次長：雪も多く降り、大変な状況の中で学生には事業にご尽力いた

だいた。今後も学生の若い視点を取り入れることで地域の企業の課題が解決できるように支えていければ良いと思う。

(意見) F 委員：一度都会で就職した人でも、このコロナ禍により U ターンされている人もいる。また、介護をするために地元に戻っている人もいる。インターンシップとは違うが、せつかく地元に戻っているのので地元で就職していただければ良いと感じている。

(質疑①) R 委員：F 委員の意見を聞いて、学生だけを対象とするのではなく、社会人についても対象とすれば良いのではないかと感じた。

(応答) 山本総務部次長：この事業はインターンシップということで基本的には学生を募集の対象としているが、社会人の知見が求められることも考えられるため、今後、検討していきたい。

<b>【採決結果】 総合評価：◎</b>
----------------------

(2) ■基本的施策名：(1- (2)) 千里浜 IC 周辺の賑わいづくり

□重要業績評価指標 (KPI)：道の駅のと千里浜のレジ通過者数

(質疑①) G 委員：自然栽培でつくった米や酒など、地元で作られた産物についてもっとフォローアップしていく必要があると思う。賑わいづくりや魅力ある売り場の構築も大事だが、施策の 7. 8. 9. 10 にある自然栽培や商品開発をする店舗の支援など、産物を作ることへの支援も行っていないと品物のマンネリ化や品薄につながると思う。

(応答) 岡嶋商工観光課長：商品開発については、市内の業者と相談しながら、補助金の支援も行い、昨年度は 5 品目の 6 次化商品を新たに販売した。自然栽培についても、収量を確保するように努めていきたい。

(質疑②) R 委員：道の駅が開業した時は、多くの業者が集まって意見を出し合うような機会があったが、今はそのような機会がなく、声掛けもない。各店舗に任せることも大事だが、ある程度行政の方で、業者をまとめることも大切だと思う。また、業者と行政が連携を図るような場を設けることも行ってほしいと思う。

(応答) 岡嶋商工観光課長：道の駅の方にも意見を伝えて、よりよく連携出来るようなことを考えていきたい。

(質疑③) B委員：道の駅のような人の集まる場所を強化することは市内の観光の底上げになってよいと思う。

今後は「責任のある観光」と言われており、努力する事業者がコロナ禍で残っていくと言われている。事業者については支援を頂きながら、商品のラインナップを考えていただけたらと思う。

また、市内には観光案内所が人の来るところにないのではないかとされているので、今後、設置に向けて検討いただければと思う。

千里浜インターを降りて、道の駅へ寄り、輪島に行くというような通過型だけでなく、もっと市内に誘導していくような滞在型観光を目指していければよいと思う。

なお、観光協会では今年度、商品を審査して観光協会アワードという賞を作ろうと考えている。宣伝にもなると考えており、賞をとったものを道の駅におくということも行っていきたい。

業者が話す機会がないという点においても、商工会と観光協会とが連携しつつ、事業者が話し合う場を設けられたらいいと思う。

(応答) 市長：少子高齢化、人口減少の社会で、いかに交流人口を増やすかが重要だと思う。また、交流人口を増やして地域経済の活性化をすることが必要だと考える。

そこで私としては「羽咋駅周辺の賑わい創出」、「千里浜インターチェンジ周辺の賑わい創出」、「千里浜インターチェンジ周辺の若者向けの宅地造成」、「商業施設の誘致」、「妙成寺の国宝指定」を推進していきたい。

宿泊施設が市内に少ない中で、いかにお客様を羽咋市に周遊させるかが大事だと思う。それは、点と点でなく、点と点を結んで線にしなくてはいけないため、市内には千里浜だけでなく、妙成寺、永光寺、気多大社、豊財院といった大きな観光資源があるので、そこにお客様を繋ぐような仕掛けが必要だと思う。

また、お客様に羽咋市でお金を落とすとしてもらうためにはお土産を買って貰ったり、食事でお金を落とすとしてもらう必要がある。

そのためには羽咋市独自の土産を作ることも大事だと思う。土産品協会や菓子店と共同で共通のお土産を作るのも面白いのではないかと考えている。食についても同様に羽咋市独自のものを生み出していければ面白いと思う。

行政できっかけを作り、事業者の方で取り組んでいけるような仕掛けができればよいと考えている。

自然栽培については、なかなか収穫量が確保できないと聞いており、若者が自然栽培で生活できるようなシステムを作る必要があると感じている。

行政だけではなく、官と民が連携して、皆様の意見を取り入れながら、若者が住めるまち、既存の事業者が発展するような取り組みを共同で行っていきたい。

(質疑④) B委員：観光案内所の件については、どのようにお考えでしょうか。

(応答) 市長：観光案内所については、行政が設置するのか、観光協会に委託するのか、場所はどこがいいのか等、検討していく必要があると思う。

(質疑⑤) E委員：山川委員や市長が話していたように、道の駅を基点として羽咋市内の施設や観光名所に人が流れるように連動させることが今後必要であると思う。それに先立って、目玉となる商品が開発出来れば起爆剤になると感じる。また、千里浜温泉郷をどのようにPRしていくのか教えていただきたい。

(応答) 岡嶋商工観光課長：ゆ華、ユーフォリア、休暇村で共通のタオル等を作ってPRしてきたが、引き続き、これらの施設をPRすることによって、多くの方に来ていただけるように取り組んでいきたい。

**【採決結果】 総合評価：△**

(3) ■基本的施策名：(4- (2)) グローバル社会に対応した英語教育の推進

□重要業績評価指標 (KPI)：中学3年生の英検3級以上取得率

(意見) H委員：今年度、英語の学力については中学校からも「結果がすごくよくなっている」と小学校に対する感謝の言葉があった。そういった背景には、あまりクローズアップされていませんが、英検ジュニアに対し市の助成金があること等が挙げられる。英検や英検ジュニアのどちらについても検定料の助成があり呼びかけやすい。羽咋市の英語力のアップに繋がっておりますので、継続して取り組んでいけたらと思う。

(応答) 中山学校教育課学務担当課長：小学校からの積み重ねが大変効果があがっていると実感している。昨年度、小学校が新学習指導要領に改定し、今年度中学校も新学習指導要領に改定された。そこでは、英語、外国語活動のどちらの教科についても話す・書く・聞く・読むの4技能についてまんべんなく育成するとなっているため、日常的な授業の中で不得手な生徒たちの対策について改善されるのではないかと思う。

**【採決結果】 総合評価：◎**

(4) ■基本的施策名：(4- (1)) JR 羽咋駅周辺の整備

□重要業績評価指標 (KPI)：旧マルシェ跡地の整備完了 (R6 年度まで)

(質疑①) P 委員：旧マルシェ跡地の計画について、注目度が高いわりには、あまり知られていないと感じる。決まっている部分だけでも情報公開すればよいのではと思う。

(応答) 中島都市づくり推進室長：市のHPに基本計画が掲載されているので、ご覧になって頂きたい。具体的なことについては、今後決めていくので決まりましたら情報発信させて頂きたいと思う。

**【採決結果】 総合評価：◎**

(5) ■基本的施策名：(1- (3)) 住民主体の支えあいのまちづくりを推進

□重要業績評価指標 (KPI)：生活支援協議体の設置数

(質疑①) O 委員：空き家対策、独居老人対策について町会長の方にも相談があるが、町会との関わりや民生委員との連携をどのように考えているか。

(応答) 片山地域包括ケア推進室長：町会や民生委員については、相談があった場合には市の地域包括ケア推進室の職員や介護サービスとの関係機関と情報共有をし、個別のケア会議をさせて頂いているところなので、これからもご協力をお願いしたい。

(意見) O 委員：相談がある前に問題が起こることもある。問題が起こらないようにどうすればよいか考えていきたい。

**【採決結果】 総合評価：○**

## 8. 講評

(1) オブザーバー：北陸財務局 谷内 松彦 総務課長

個人的な感想として、重点施策の一つ目に掲げているインターンについては、通常のインターンシップとは異なり、課題解決型という意義ある取り組みを行っていることから、支援団体の御祓川さんのプランニングはとても興味深いと思いました。

関係人口や交流人口を増やす最終的な到達目標は、移住定住人口の拡大ということだと思います。コロナの影響により、リモート化も進んでいますので、HP等でリモートを活用したPR配信や、インターンの事前の説明会などがあっても良いのかなと感じました。

(2) オブザーバー：石川県中能登総合事務所 涌井 信弘 所長

さまざまな意見や積極的な提案があり、この場を通じて議論していただくことが有意義なことだと思います。また、創生総合戦略そのものが、効果検証・評価を踏まえ、今後市政運営に影響する重要な会議となっておりますので、このような推進体制をより発展させていってほしいです。

さて、評価について、今回は◎が23個、○が40個と、良い評価が約8割を占めておおむね順調かと思います。しかし、事務局側の担当課評価シートの記載が、事業の列挙を中心に記載されており、どのように現状把握して見直していくのかという点が少し足りないと感じました。

そこで事務局側は、どのような基準で評価しているのかを見てもみますと、令和2年度の目標を達成している施策に関しては、ほとんどが◎や○になっているとみえました。

しかしながら、目標達成しているが評価が悪い施策に関して、どのような理由でこの評価をつけたのか考え方を簡単に記載していただくと、もっと委員からの意見も出て、深い議論になっていくのかと思います。また、△と○の評価の関係も同じで、目標値を達成していない施策については、コロナの影響ということで、概ね評価△となっていると思います。

しかし、目標値を達成していないにも関わらず、評価を○にしているものもあるので、このような場合も、どのような考えで評価を○にしたのか触れて頂ければ、より分かりやすいものになるのではないかと思います。

今後のこととなりますが、効果検証評価を来年度予算にどのように反映するのも重要となり、また今年度事業に関しましても、まだ半年間期間が残されておりますので、今回新たに追記された「本市の魅力を生かしたテレワークスタイルの提供」という事業も、そういった面で見直して頂ければと思います。

(3) アドバイザー：国立大学法人金沢大学 高山 純一 名誉教授

今年で6、7年目になりますが、幅広い分野で事業を着実に実施し、きちんとPDCAサイクル回しながら事業を進めていると思います。コロナが蔓延してきて想定外だったと思いますが、戦略の改定案としてコロナ感染症拡大防止の施策を入れたのはとても良い事だと感じました。

人口の推移について、近隣市町の人口増減状況は、羽咋市が△5.98 七尾市は△9.02となっており、奥能登の減り方が激しく、金沢に近いかほく市はプラスとなっていることから、羽咋市は頑張っていると感じるが、もう少し頑張らなければならないという評価と分かれるかなと思います。

事務局説明にあった近隣市町の人口動態の内容分析をしっかりとしているということは、いい取り組みだと思いますが、近隣市町の異動理由を調べるだけでなく、年齢階層



も加えて分析すると、よりはっきり原因が見えてくるのではないかと思います。

重点事業については、交流人口を含めて羽咋市に人を呼び、転出を抑えるためには、仕事がないと生活できないことから、仕事創出やどのような情報を発信していくのがキーになると思います。道の駅で羽咋の魅力をいかに PR するかということも大事になってくると感じました。一次産業の農産物を、上手く加工して6次産業化し、羽咋市の中でうまく進めることができれば、地産地消を含めて効率も良くなり、生活できる人達も増えていくのではないかと思います。よって、6次産業化を支援する仕組みが大事だと感じました。

また、交流人口を増やす、あるいはいろんな産物をインターネットで販売するなどの、PR 戦略が弱いと思いました。SNS を上手く活用するというのは、日本だけでなく世界へも情報発信できる方法なので、加賀市の YouTube 使った面白い配信 PR 動画などを参考にした、SNS 配信を検討してほしいです。役所はそこが一番弱いと思うので、上手く活用することが課題になってくると思います。

また、全国統一学力検査で石川県が1位で、さらに、石川県の中でも羽咋市が上位ということは、教育レベルが高いということなのでとても誇らしいことです。そのことをもっと上手く PR すれば、羽咋市で子育てしようという人が増えてくるのではないかと思います。良い材料があるのに、PR 不足だと思います。かほく市の人口が増えている理由は、奥能登等の方が家を建てる際に、安価であり金沢の土地代が高いからだと思えるので、そこをかほく市ではなく、羽咋市で子育てしてもらえようようにすることが出来れば、人口減少も緩和できると思います。

そのほかにも、JR 羽咋駅周辺の整備として、マルシェ跡地の活用がうまくいけば羽咋駅周辺のにぎわい創出に貢献でき、市民だけでなく周辺地域からも人が集まる施設になるのではないかと思いますので、しっかり事業を進めてほしいです。

(4) アドバイザー：国立大学法人金沢大学先端科学・社会共創推進機構 平子 紘平  
特任助教

7、8年前に「奥能登が壊滅しつつあるが、七尾は大丈夫」と言っていたが、今は七尾の人口減少が進み、その波が押し寄せ、羽咋市も危機的状況だと感じております。奥能登を見据えていたはずの七尾がこのような状況になることを考えると、やはり広域で連携し、取り組むことが大事だと感じました。

インターンについては、県内でも大学コンソーシアムが地域課題研究ゼミナールを行っており、羽咋市では県立大学と「空き家や耕作放棄地の有効活用を見出す」取り組みをやっていると聞いていますので、もっと上手く活用できるものもあるのではないかと思います。

また、本学が提供する「共創型企業・人材展開プログラム」に参加する首都圏の優秀な人材が意外に多いのは、コロナ禍の影響もあって、都会でなくても、新幹線ですぐに

帰宅できることや、仕事もリモートワークで働けることに気付いたからだそうです。そういう方達が結構石川県にいらっしゃるので当プログラムも活用してもらえばいいのではないかと思います。

また、地域課題が見えないことについては、過去の研究結果や付属資料を関連付け、市民の方にもデータを隠さず知ってもらうことで、さらに議論できるようになると思うので、是非そのようにデータを活用していただきたいと思います。

## 9. その他（事務連絡等）

- (1) 効果検証の報告書、がんばる羽咋創生総合戦略の改定案を事務局で取りまとめて、9月の下旬から10月中に会長と副会長を中心に岸市長へ戦略会議として提言して頂く場を設ける
- (2) 後日、提言に出席して頂く委員にはその旨を連絡する。
- (3) その他の委員についても、効果検証の報告書、戦略の改定案については、提言後、郵送にて送り、データにて欲しい方にはデータでも送付することを周知。

以上3点についての事務連絡を行った。